

なかま

全天が 青青の 薄 (すすき) かな
彼岸には ブレアデス M45 輝きぬ

行事予定表

9月28日 運動会 前期最終日
10月5日 後期開始日
10月12日 参観日(懇談) 小5小6、小3小4
10月19日 参観日(懇談) 小1小2、中P小中高
10月26日 古本セール
11月2日 新1年募集説明会
11月9日16日 表現学習発表会

ライダー大学セキュリティから警告がありました。

メモリアルホール駐車場における本校関係者の駐車マナーが悪いので、今後駐車スペース以外に駐車している場合は違反チケットを発行する。大学関係者も駐車しているのでマナーを守ってほしい。

大運動会を無事故で

今年は爽やかな青空のもとで最後まで競技を楽しめそうです。

天気が良い分だけ虫、特に蜂には十分注意しましょう。蜂を刺激するだけで気をつけてください。

運動会係の皆さん、Tシャツ作成販売頂いた皆さん等多くの方々に、今日までの準備を含めて、最後までご協力いただきありがとうございます。保護者の皆さま、来たときよりも美しく！をお願いします。



読書の季節に

大人は「若いときに読書をしなさい」と言います。年取ってから、自分が読書をあまりしてこなかったことを後悔して言うのです。大人になり仕事が忙しくなると、仕事に必要な本は読んでも、もっと基礎になるよい本をじっくり読む時間を作るのは、そう容易ではなくなります。とにかくあれもこれも、こなさなければならぬことが多くなると、ゆっくりしていねいに本を読むことは難しくなるのです。

大人が後悔するのは反対に、子どもの時代は将来のことにまで関心が向かないので、ややもすると読書をおろそかにしがちです。しかし、若いときの読書は、財産を蓄えていると同じ価値があることなのです。

校内読書感想文コンクール最優秀作品を紹介します。

⇒

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.19号

平成26年 9月28日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

「とびたいな」

小3

嶋田萌愛

まじょみたいに空をとびたいな。わたしは一日も早く、ほうきにまたがって、空をとんでみたいです。家族でスキー場のリフトにのっている時、白い雪が、木につもっていてキラキラ光っています。しぜんの風がふくとすごくいい気持ちです。それを思い出すと、今すぐ、ほうきにまたがって、けしきがよい、気持ちいい風がふく空をとんでみたくなります。でも、少しこわいです。なぜかかという、もし何かにぶつかったら、こわいからです。

「まじょになりたい」という本を読むきっかけになったのは、この本の主人公が、わたしの名前と同じ、もえちゃんだからです。それに、わたしは、まほうで空をとんでみたかったからです。わたしはさいしょ、まじょはみんなこわいと思っていました。でも、この本を読んだ後は、やさしいまじょもいることを知って、わたしはやさしいまじょになりたいくなりました。

この本は、まじょになりたいもえちゃんがしゅぎょうをしている話です。もえちゃんは、ベンチになってまほうの力がきえてしまって、まじょにもどれなくなったおばあちゃんのみじょから、まほうのわざを教えてもらっています。

もえちゃんはさいしょ、やるきまんまんだったけれど、思ったより早くまほうが使えないので、いやになってきました。けれど、もえちゃんは、あきらめずにがんばります。わたしは、もえちゃんはやるきのある、がんばる子だと思います。

わたしも、もえちゃんの気持ちがよく分かります。少し前、一りん車にのれるように何回も練習をしてがんばっていました。さいしょはお母さんの手を持ちながら練習をして、なれてきたら一人でのってみましたが、さすがに一人ではむずかしかったです。でも、何でも何でも練習をしたら、一人で二十メートルくらいにのれるようになりました。

わたしは、練習をしていた時、そんなに上手ではなかったけれど、のれる時を楽しみにしていたから、つらくはなかったです。もしかしたら、もえちゃんも、まじょになれるのを楽しみにしていて、あきらめなかったかもしれません。

これからも、もえちゃんみたいに、むずかしいことにもチャレンジして、がんばっているいろんなことができるようになりたいと思いました。

次ページは西宇陽君の作文が掲載されています！

なかま

「永遠の0 (ゼロ)」を読んで 中1 西宇 陽

この話は、太平洋戦争の中、「生きて家族の元に帰る」と言い続けていた祖父、宮部久蔵がどのような人だったのかという疑問を持った健太郎が、祖父のことを調べる形で進められた。

この本を読んで、ぼくは四つのことについて考えさせられた。

一つ目は勇気についてだ。田舎にいる兄弟や親のために勝つと信じて特攻に行く特攻隊の人は、とても勇気をもっているとぼくは思う。この本を読んで、ぼくはそれとは違う勇気があることを学んだ。それは、健太郎の祖父、宮部がみんなが特攻に行くことと決めた中、自分は行きたくないという自分の意見をしっかり持って、それを貫いた勇気だ。周りの人が口をそろえて同じことを言っている時に、それに反論するのは、非常に勇気のいることだ。ぼくも周りに流されて、自分が本当に言いたいことを言い出せないことを今までに経験したことがある。しかし、この本を読んで、宮部の勇気を知ってそれではいけないということを考えた。これから大人になっていく過程で、また大人になってから、そのような場面に出くわすことがあると思うが、その時には宮部が示した勇気をぼくも出すことができるような大人になりたい。当たり前なことを当たり前で発言できる人間になりたいと思った。宮部は、自分が特攻に行かなければならない日、壊れた飛行機が当たった。もし、自分がそれに乗ると、自分は助かる可能性があることと知っていたが、宮部は、その飛行機を他人の壊れていない飛行機と交換した。その行動に僕はとても感動した。自分を犠牲にして他人を助けることは、なかなかできないことだと思う。またそれを行うのは、人一倍勇気があることだと思う。

二つ目に考えたことは、一つ目と関係のあることだが、信念を持って、そして貫くことについてだ。この当時、戦争中は皆が死ぬことを覚悟していたと思う。また、軍隊では常に死と隣り合わせだ。しかし、宮部は生きて帰りたいと言い続けていた。最初、ぼくは、お国のためにと死ぬ覚悟で入隊したのに生きて帰りたいと言っていることに対して、とても不思議に感じた。しかし、この本を読み進める中で、宮部は自分の妻に、必ず生きて帰り幸せにすると約束したことを知った。この約束を守るために、また、その考えが正しいと信念を持っていたから、仲間からどんなことを言われても、長官からなぐられたりしても、その信念を曲げずに、亡くなるまで貫いていったのだと思う。信念を曲げずに貫くという姿勢

プリンストン日本語学校新聞



平成26年度 No.19号

平成26年 9月28日

文責 長尾重範 nagao@pcjls.org

について、ぼくはすごいと思うし、見習いたいと思う。

三つ目に考えたことは、思いやりについてである。先ほども書いたように、宮部は自分の不調な飛行機と他人の飛行機を交換した。宮部の場合、「生きて家族の元に帰る」という信念を持っていたので、その時に、自分が生き残るか、他人を助けるか、心の中で迷いがあったと思う。しかし、宮部は最終的に、他人を助ける方を選んだ。このことに対して、ぼくは驚くと共に、自分が宮部だったら、このようなことができたろうか、いやできなかったろうかというのを考えた。宮部は他人を思いやる心が人一倍強かったので、人を助ける方を選ぶことができたと思う。また、ぼくは宮部が言ったことに興味を持った。それは、ある一人の兵が宮部に「なぜ戦場に行かしてくれないのか」と不満をぶつけた時、宮部は「君たちは日本にとって、とても必要なのです。死んではいけないのです」と言ったことだ。宮部にはとても強い思いやりの心があったからこそ、そのようなことを言えたと思う。

四つ目に考えたことは、戦争の悲惨さについてだ。宮部のように思いやりのある人をも死なせてしまう戦争はとても悲惨だと思う。ぼくは祖母から戦争について話を聞いたことがある。空には三百機ぐらいの飛行機が編隊を組んで襲ってくる。その時、空は真っ黒だったと。

今も、世界の中で、戦争が起こっているが、現地の人にとって、とてもつらくて、悲惨であると思う。できたら、ぼくは戦争の元になる問題があるとしたら、それを戦いで決着をつけるのではなく、話し合いなどで解決してほしい。それによって、戦争に苦しんでいる人たちにも新しい希望が生まれてくるかもしれない。

この本を読んで、ぼくはどのような理由があっても戦争はしてはいけないということを再認識した。